

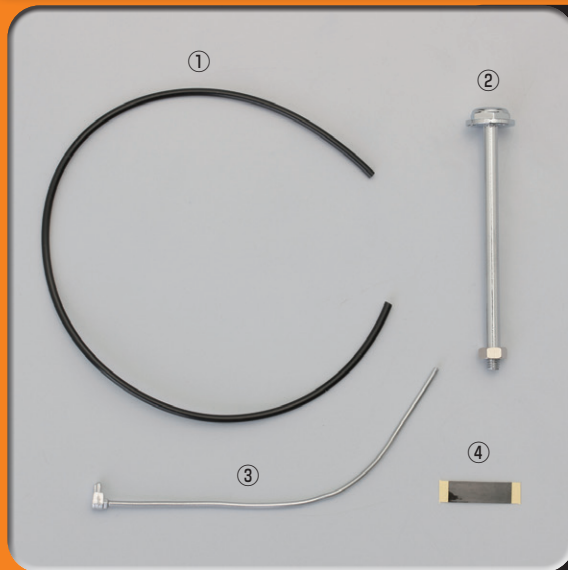
今号の作業

フロントフォークを取り付ける



今号では、71号で組み立てたフロントフォークをメインフレームに取り付ける。また、フロントフォークに組み込まれた電飾ギミックのコネクターを、メインフレームの燃料タンク内に収められた制御基板に差し込む。モデルの組み立て作業としては最大の山場となるので、できるだけ慎重に作業を進めよう。

今号のパーツ



- ①スピードメーターケーブル×1
- ②ステアリングステム&メタルナット×1
- ③ブレーキホース×1
- ④粘着テープ(黒)×1

※注意/各電飾ギミックのコネクターケーブルは、乱雑に扱ったり、強く引っ張ったりすると断線トラブルの原因になります。できるだけ慎重に取り扱ってください。

用意するもの

- ・メインフレーム(71号で組み立てたもの)
- ・フロントフォーク(71号で組み立てたもの)

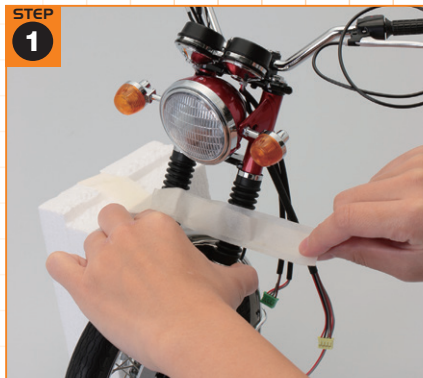
あると便利な道具

- ・多用途接着剤
(「セメダイン スーパーX-G」推奨)
- ・転倒防止用のクッション材
(モデルの両側面を囲う程度のサイズ)

使用する道具

- ・ラジオペンチ
- ・ピンセット

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。



フロントフォークを置くために巻き付けておいた台座を取り外す。台座を取り外したフロントフォークは不安定な状態になるので、衝撃を与えないよう注意して扱おう。



フロントフォーク右側面を上に向けて保持する。①スピードメーターケーブルを用意し、フロントフォーク右側面の下部に設けられた取り付け穴へセットする。



スピードメーターケーブルを穴の奥まで押し込む。穴が緩く、ケーブルが簡単に抜けてしまう場合は、ケーブル先端に少量の多用途接着剤を塗布しておくといいだろう。



フロントフォークを立てた状態でしっかりと保持し、背面から出ている「C(4PIN)のコネクターケーブル」を軽く引き出して伸ばす。くれぐれも強く引かないように注意しよう。



③で取り付けしたスピードメーターケーブルの片端を、写真を参照して「C(4PIN)のコネクターケーブル」の左ケーブル上部と束ねる。束ねる位置は、ヘッドライトの裏側あたりがいい。



④粘着テープ(黒)を用意し、ピンセットを使って⑤で束ねたケーブルの上に貼る。



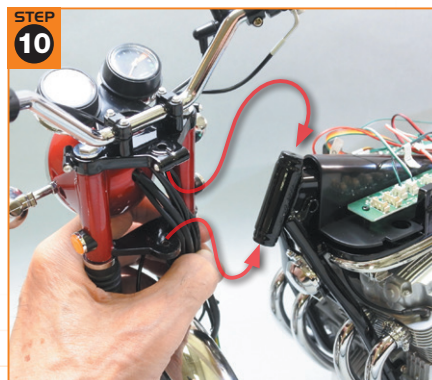
粘着テープを巻き付け、スピードメーターケーブルを固定する。



②ステアリングステム&メタルナットを用意し、メタルナットを取り外しておく。軽くねじ込まれているだけなので、ナットを左に回せば簡単に取り外せる。



71号で組み立てたメインフレームを用意し、燃料タンクを取り外しておく。この時、メインフレームの真下に「高さ5cm程度」の台座(①で取り外したもので可)を挟んでおくと、後の作業がしやすくなる。



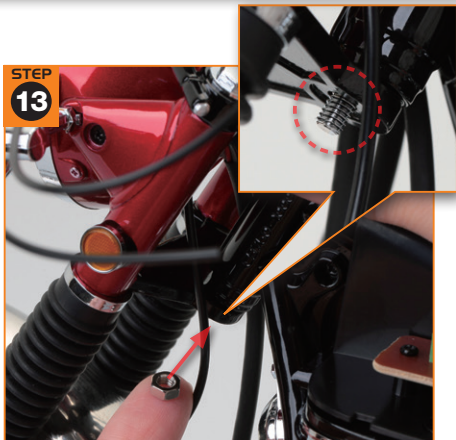
メインフレームが倒れないようしっかりと保持し、⑦で組み立てたフロントフォークを写真左側のように持つ。フロントフォークのケーブルは、写真のように片側にまとめるか、「C(4PIN)のコネクターケーブル」と「A(2PIN)+B(4PIN)のコネクターケーブル」を左右に振り分けてもいい。



フロントフォークをメインフレームに取り付ける(⑩の赤矢印を参照)。取り付け位置に対し、フロントフォークのトップブリッジ部分が傾いているとはめ込みにくいので、慎重に角度を合わせて取り付ける。



⑧でメタルナットを取り外したステアリングステムを用意し、写真で示したトップブリッジの穴に差し込む。穴を真上から見て、メインフレーム側の穴と重なっていることを確認してから作業しよう。



ステアリングシステムを奥まで押し込み、トップブリッジの下部へ貫通させる。次に⑧で取り外したメタルナットを用意し、突き出したステアリングシステム先端のネジ部分にセットする。



メタルナットを指先で押さえ、ステアリングシステム上部の六角形部分を右に回してねじ込み、メタルナットを仮留めする。



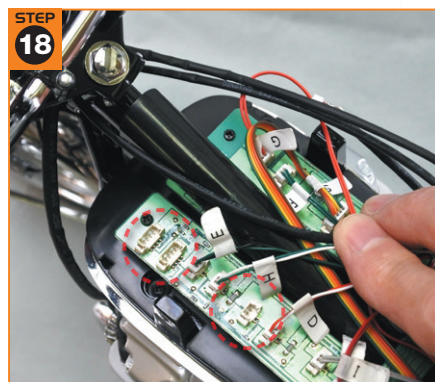
メタルナットを仮留めしたら、ラジオペンチを使ってメタルナットを保持し、ステアリングシステム上部の六角形部分を“指先で締め込めるところ”まで締め込む。工具を使って締め込むと、ステアリングの動きが悪くなるので、必ず指先のみで締め込もう。



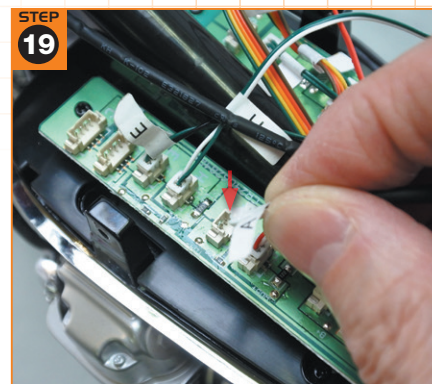
これでフロントフォークの取り付けは完了した。メインフレーム下に挟み込んでおいた台座を取り外し、メインスタンドを使って立てておこう。



続いて、コネクターの接続作業に取り掛かる。まず、フロントフォーク側のコネクタケーブルを引き出す。



メインフレーム側の制御基板上にまとめたケーブルを軽く押さえ、写真で示した3カ所のソケットを露出させる。



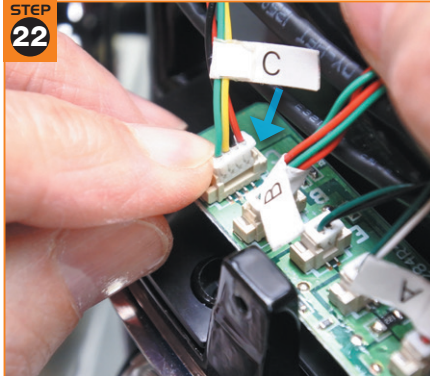
まず、A(2PIN)のコネクタをAのソケットに差し込む。コネクタには差し込む向きがあるので、間違えないよう写真を参照しながら作業しよう。また、ケーブル部分を持って作業すると断線する恐れがあるので、必ず樹脂製のコネクタ部分を持つこと。



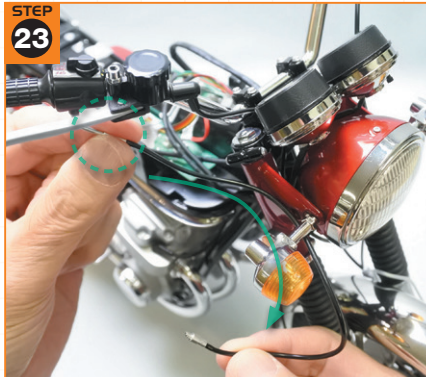
コネクタを正しい向きでソケットにセットしたら、真っすぐに押し込んで接続する。

STEP
21

続いてB(4PIN)のコネクターを同じ要領でソケットに差し込む。

STEP
22

最後にC(4PIN)のコネクターを同色のソケットに差し込めば、コネクターケーブルの取り付け作業は完了だ。

STEP
23

モデルのフロント側を手前に向け、右グリップから伸びる写真で示したケーブルを手取る。付け根の樹脂パーツ部分を保持しながら、ケーブルを伸ばす。樹脂パーツは細いので、折らないように注意しよう。

STEP
24

23で伸ばしたケーブルの上部を保持し、先端部分を右フロントフォークとヘッドライトの間に通し、後方へと引き出す。

STEP
25

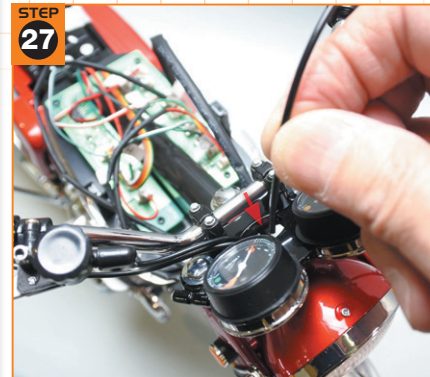
ピンセットを使い、後方に引き出したケーブル先端をメインフレーム中央にあるホーン横の開口部に通し、ヘッドカバー上部の取り付け穴にセットする。

STEP
26

ピンセットを使い、ケーブル先端の樹脂パーツを取り付け穴に差し込む。すぐに外れてしまう場合は、樹脂パーツの取り付けピン部分に多用途接着剤を少量塗布し、接着剤が乾いてから差し込むといい。

実車とモデルの違いについて

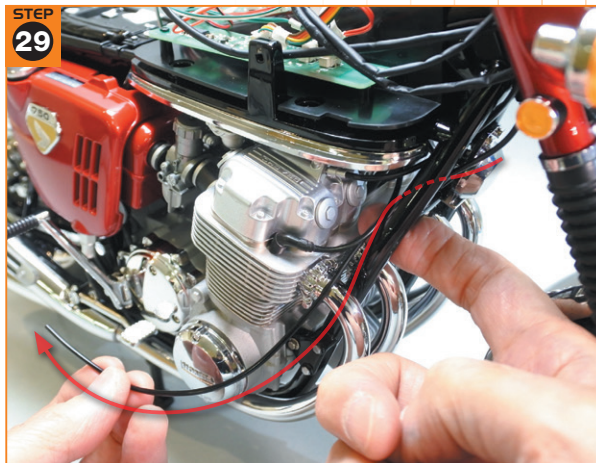
23～26で取り付けしたケーブルは「アクセルワイヤー」ですが、モデルでは「タコメーターワイヤー」と一体化した仕様で再現しています。つまり、「ハンドルバー下からヘッドライト裏まで」はアクセルワイヤーとして、「ヘッドライト裏からヘッドカバーまで」はタコメーターワイヤーとして再現。これはケーブルの数を減らすことで、電飾ギミック用ケーブルの太さを目立たなくするためです。

STEP
27

次に左グリップから出ているケーブルの先端を、トッブリッジの開口部に通す。ケーブルの付け根部分は強度的に弱いので、折れたり外れたりしないよう注意して扱おう。



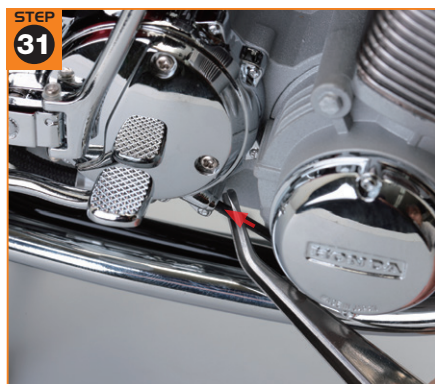
トッブリッジ開口部を通したケーブルを、マシン右側に引き出しておく。



ケーブルの先端を、メインフレーム中央のホーン横にある開口部を通し、さらに右フレーム裏側から手前に引き出す。



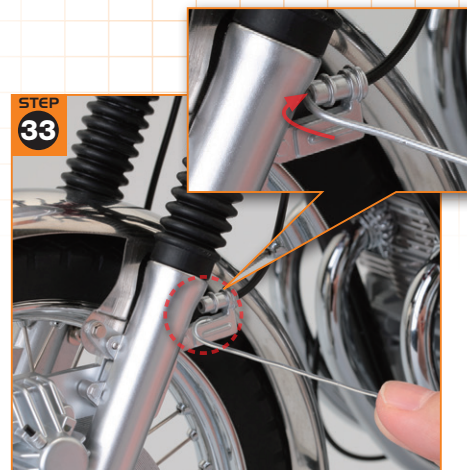
ケーブル先端をエンジン右側下部にあるクラッチアジャスティングカバー下の取り付け穴にセットする。



ピンセットを使い、ケーブル先端を取り付け穴にしっかりと押し込む。



③ブレーキホースを用意し、樹脂パーツが取り付けられていない側を、上写真の形状になるよう曲げておく。ブレーキホースの中には針金通っているため、任意の形状に整えることができる。このとき、樹脂パーツに設けられた取り付けピンの向きと、曲げる方向は下の写真を参考にすること。



フロントフォーク左側面の写真で示した穴へ、曲げた先端部分を3mm程度差し込む。押し込み過ぎると、反対側に取り付けたホースが押し出されてしまうので注意しよう。



差し込んだ部分が抜けやすいように注意しながらブレーキホースを上へ引き上げ、左フロントフォークの裏側へ取り回す。なお、③②～③④の作業でブレーキホースの塗料の一部が剥げてしまった場合は、後の号で対処法を案内するので、そのまま作業を続けよう。



差し込んだ部分が
抜けないように
つまんで保持

写真のように、差し込んだ部分が抜けないようにしっかりとフロントフォーク後方のブレーキホースを保持し、先端部分をフォークの前側に回す。



ブレーキホース先端の樹脂パーツに設けられた取り付けピンを、写真で示したブレーキキャリパーの穴にセットする。



樹脂パーツを真っすぐに押し込み、ブレーキキャリパーに取り付ける。



ブレーキホースの形状を指先で整える。



ラバーブーツ

ブレーキホースの形状を整えた状態。ラバーブーツに干渉しないよう曲げている。



制御基板上的コネクターケーブルを軽く束ねて押さえ、燃料タンクをセットする。なお、現段階の燃料タンクは前端部分がトップブリッジ後端部に干渉してしまうため、「載せておくだけ」でよい(完全に固定するのは次回の作業で行う)。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。メインフレームとフロントフォークが合体し、CB750FOUR(K0)の勇姿がかなり再現されてきた。今号以降はメインスタンドで立てた状態での保管も可能になるが、万が一倒れて破損したりしないよう、両側に転倒防止用のクッション材などを置いておくといいだろう。